

## ① 3年生「海と魚のコレクション」



ふるさと創生会議

幼魚採集体験

### 3年生 海と魚のコレクション



地元漁師との交流学习

フィッシングフェスタ

## ② 4年生「まちのヒーロープロジェクト」



ふるさと創生会議

環境教育(鳥獣害について学ぶ)

現地調査(和田浜)

### 4年生 まちのヒーロープロジェクト



地域木材工場見学

「夢ロード」製作

「夢ロード」設置

地域の宝である「海」をはじめとする豊かな自然に囲まれた和田地区を舞台に、子どもたちが自ら課題を発見し、地域の人々と共に学びを深めている。ふるさとの魅力と未来を探究する実践的な取り組みである。

## ③ 5年生「若狭小鯛調査隊」



若狭高浜漁協見学

小鯛ささ漬工場見学

福井県立大学での調査

### 5年生 「若狭小鯛」調査隊



若狭小鯛レシピ探究

調査・探究のまとめ

プレゼン大会・商品化へ

## ④ 6年生「コドモノ明日研究所」



コドモノ明日研究所 入所式

地域の課題を探る交流会

他校とのオンライン探究交流

### 6年 コドモノ明日研究所



グループ別探究活動

プレゼン大会・商品化へ

- ① 海の魅力発見と「フィッシング・フェスタ」でのPR
- ② 海ゴミや獣害廃棄物の利活用法、観光閑散期のアイデアを探究
- ③ 若狭小鯛の活用方法を探究
- ④ 「海」から広がる和田の魅力を引き出す「和田レベルアップ計画」

(様式1)

令和7年度「ふるさとの学び特別賞」応募票

学校名 高浜町立和田小学校

1. テーマとアピールポイント

テーマ

UMIKARA  
「海」から広がる ふるさと未来プロジェクト

アピールポイント

ブルーフラッグビーチを中心とした「海」をはじめとする豊かな自然に囲まれた和田地区を舞台に、子どもたちが自ら課題を発見し、地域の人々と共に学びを深めている。ふるさとの魅力と未来を探究する実践的な取組である。

2. 活動内容

和田地区の中心にあるのは「海」である。和田小学校では、この地域の自然や産業、暮らしと深く関わる「海」を起点に、ふるさとのよさと課題を見つめ、自分たちにできることを考え、行動する力を育てている。学習の出発点は、児童の「なぜ?」「どうして?」という純粋な「問い」である。その自分たちで立てた「問い」をもとに、地域の方々に学び、仲間と考えを深め、地域に解決策を発信するという学びの流れを3～6年生を中心に全校130名で共有しながら、取り組みを進めている。

3年生は、ふるさと創生会議を通して地域の豊かな海の資源に関心をもち、「和田の海の魅力をもっと多くの人に伝えたい」との思いから探究学習を開始した。漁協の方や漁師にインタビュー（交流学习）を行い、地域の魚の特長や漁の様子を学んだ。また、魚類研究者の鈴木香里武氏とは、幼魚の採集体験を行い、魚の生息環境について理解を深めた。その学習のまとめとして、自分たちで企画した「フィッシングフェスタ」を開催し、展示やクイズ、ゲーム等で、海の恵みと課題を他学年や地域に発信した。

4年生は、和田浜への「夢ロード」の設置や海岸清掃活動を行う中で、「海や浜をもっときれいにしたい」「拾ったゴミを、何かに活かせないか」といった問いを立てた。また、ふるさと創生会議では、観光客減少や鳥獣害などの地域の課題についても学んだ。現在、地元食材やアクティビティを生かした閑散期（秋～春）の地域活性化策、海ゴミを再利用した鳥獣害対策、獣害廃棄物の利活用をテーマとして探究学習を進めている。今後は、それらの取り組みの成果をプレゼンテーションする予定である。

5年生は、地域の方との交流学习から若狭小鯛の漁獲量・消費量が減少していることを知り、その現状に危機感を持った。そして、「自分たちの手で若狭小鯛の魅力を広めたい」と考え、若狭小鯛（レンコ鯛）を使った新しい商品づくりに挑戦した。調理方法をはじめパッケージデザインやキャッチコピーなどについて話し合い、試作品をプレゼン大会で紹介。地域の漁業関係者や加工業者の協力を得て、実際の商品化を目指して活動を続けている。この探究学習を通して、子どもたちは、自分たちの学びが地域の産業や未来づくりにつながることを実感している。

6年生は、「海だけではない、海から広がる和田の魅力を引き出し、伝えるために自分たちにできること」をテーマに、地域の特産物や自然環境、ゴミの状況を調べるなど、課題を発見し、解決するための探究活動を開始した。そして、「高濱明日研究所」や地域の専門家（業者）の方々とも協働し、7つの提案をまとめた。その学習の成果を発表するプレゼン大会では、地域の方々

を前に自分たちの考えを堂々と発信し、参加者からは「子どもたちの思いが心に響いた」との声を多くいただいた。今後は、投票などをもとにして選ばれたアイデアの実現に向けて、学びを継続していく。

このように、児童の主体的かつ探究的な学びが、地域の方々の支援を受けながら広がり、ふるさとの海と深くかかわる学びとして定着してきた。また、これらの探究的な児童の学びは、外部へ積極的に発信することで、他校や地域外の人々にも「地域（和田）の魅力」として知ってもらえるようにしている。特に、プレゼン大会や映像（CM）発信、交流学习などは、オンラインを活用することで、できるだけ広く伝え、子どもたち自身が地域のアンバサダーとして活躍できるようにしている。

今後は、これまでの学びをさらに発展させ、「ふるさとをよりよくするための実践」を目指していきたい。具体的には、学年ごとの取組をつなぎ、全校的なテーマとして「ふるさとの海を未来へつなぐプロジェクト」として展開する予定である。また、学年ごとの探究成果を共有し、縦のつながりを意識した学びを進めることで、子どもたちが互いに学び合い、高め合う姿を育てたい。

ふるさとの海は、和田の人々の暮らしと歴史を支えてきた大切な存在である。その海を守り、未来につなぐためにも、児童の発意と地域の協働が生み出す「生きた学び」として発展・継続させていきたい。

### 3. 年間活動実績（12月以降の予定を含む）

5月	3年・4年	「ふるさと創生会議」（地域の方々との意見交流・課題発見）
5月	6年	「コドモノ明日研究所」入所式（地域の方々との意見交流・課題発見）
6月	4年	環境教育（地域の鳥獣害について学ぶ）
6月	5年	「若狭小鯛調査隊」発足（地域の方々との意見交流・課題発見）
7月	4年	「夢ロード」製作・設置
7月	5年	「若狭小鯛調査隊」活動①・②
8月		児童一人一人が主体的な探究活動に取り組む
10月	3年	幼魚採集体験（鈴木香里武氏と共に）
11月	3年	「フィッシングフェスタ」開催
11月	5年	プレゼン大会
11月	6年	プレゼン大会
2月	4年	「マリンミュージアム（仮称）」開催
2月	5年	商品発表（若狭小鯛の活用）・町内外のイベントでPR活動
2月	6年	課題解決策（商品）発表